

特集

「もしも」に備える



写真は、今年4月に発生した熊本地震後の熊本県益城町。

写真提供／熊本県益城町

今年4月に発生した熊本地震。これまでもいくつもの大きな災害が日本各地を襲いました。

災害は、いつ起こるか分かりません。被災された方も、まさか自分がこんな被害に遭うとは思いません。たつたのではないのでしょうか。大切な人、大切な財産を一瞬で奪う災害。

大地震などの自然現象は、人の力で食い止めることはできません。いつ起こるか分からない災害に対して私たちができることは何でしょうか。

それは、「備える」ことです。平時から「自分でできること」、「家族でできること」、「近所と力を合わせてできること」などについて考え、「もしも」に備えることが大切です。

今回の特集では、これまでの災害から見えてきた教訓を生かし、一人ひとりができること、地域の皆さんが取り組んでいることなど、「もしも」への備えについてご紹介します。

自助 自分の身は自分で守る

大規模災害発生時は、電気や水道、通信などのライフラインが止まってしまいう可能性があり、数日間は自力で生活しなければならぬことも考えられます。

日頃から生活に必要な飲料水や非常食などを備蓄しておくことが大切です。

家屋の倒壊などにより我が家に住めなくなり、避難しなくてはならなくなるかもしれません。その時にすぐに必要なものを持ち出せる用意はしていますか。

家族と連絡がとれないかもしれない、大切なペットはどうしたらよいだろうか。考えることはたくさんあります。「今は、大丈夫」と備えることをやめてしまうことは簡単です。

しかし、いざ「その時」に考えている時間はありません。「今」だからできる「備えること」について今一度考えてみてください。



鈴木俊治 防災安全専門員

防災安全専門員に聞きました

チェックしてみましょう

非常持出品リスト

- 非常食(乾パン、缶詰、レトルト食品など)
- 飲料水
- ろうそく
- 上着、下着
- ティッシュ、タオル
- 健康保険証のコピー
- 現金、貴重品(預金通帳、印鑑など)
- 携帯ラジオ
- 懐中電灯
- ライター
- ビニール袋
- 軍手、ヘルメット
- ナイフ
- 救急医療品、常備薬
- 住民票のコピー
- など

非常備蓄品リスト

- 最低3日分は用意しましょう。
- 食品(缶詰、みそ汁、チョコレートなど)
 - 水(1人当たり1日3ℓ)
 - 毛布など
 - 簡易食器(わりばし、紙皿・コップなど)
 - ウェットティッシュ、トイレトパーパー
 - ラップ、アルミホイル
 - マスク
 - 鍋、やかん
 - 洗面用具
 - 簡易トイレ
 - 新聞紙
 - 予備のメガネ、コンタクトレンズ
 - など

非常持出品は常に見直しが必要で、季節によって、必要なものが変わってくることに留意しましょう。また、特に食品は期限が切れていないか確認する必要があります。

また、非常持出袋は、自分の体重の1割程度までが良いと言われています。

各家庭に必要なものは違います。家族で話し合い、必要なものを用意しましょう。

ペットの防災について聞きました



井上綾香さん(牛島)とムクちゃん

備えておくもの

- フード(食べ慣れているもの)
- 水
- リード
- 常備薬
- キャリーケース
- タオル
- など

大切な家族であるペットの防災について、東日本大震災の際にボランティア登録や支援物資の提供をしたペットホテル「Onnyわんの井上綾香さん牛島」にお話を伺いました。

備えておくもの

災害時には、ペットフードなどの物資が不足することが予想されますので、日頃から「もしも」に備えておくことが大切です。

十分な食料や水を用意しておくほか、常備薬がある場合には、いざという時にすぐに持ち出せるように準備しておきましょう。

普段からできること

いざという時に慌てない

めに、むだ吠えをしない、人に噛みつかない、トイレトレーニングなど、普段からの基本的なしつけが大切です。

一緒に避難することを想定し、キャリーケースに入ること慣れておくことも必要です。

迷子を防止する

災害時には、飼い主とペットが離ればなれになってしまうことも予想されます。ペットが飼い主の元に戻るよう、首輪に鑑札や迷子札をつけておくようにしましょう。

猫は、パニック状態になると、物陰に隠れてしまいます。普段からどこに隠れるのか把握しておくことも必要です。

【6ページに関連記事掲載】